

# 所沢市財政トークス



第 27 号「29 年度決算」  
所沢市財務部財政課発行  
平成 30 年 10 月

## ～平成 29 年度決算の概要をお知らせします～

平成 29 年度の所沢市の普通会計決算額は...

**歳入： 1, 023 億 8, 979 万円**

**歳出： 977 億 6, 453 万円**

平成 29 年度の普通会計決算額は、前年度に比べ歳入が 31 億 7,627 万円 (3.0%) の減、歳出が 41 億 7,568 万円 (4.1%) の減となりました。歳入歳出差引額は 46 億 2,526 万円で、こちらは前年度に比べて約 9 億 9,941 万円の増となっています。

決算額等は決算カードの数値を用いています。決算カードは市 HP でご覧になれます。

所沢市決算カード

検索

決算って何？



予算を 1 年間どのように使ったのか、実績を示し確認することを『決算』といいます。

普通会計とは、各自治体の財政状況を容易に比較できるように用いられる会計区分で、全国共通の計算方法により集計します。所沢市の会計で考えると、

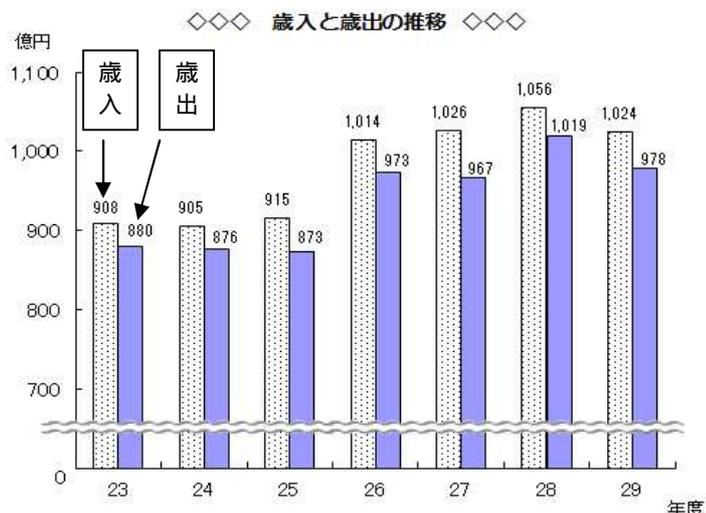
【普通会計】 = 「一般会計」 + 「下水道事業会計の一部」 + 「土地区画整理特別会計」となります。

財政トークスでは、普通会計決算額により作成しているため、一般会計決算額とは、一致しません。

## 1 決算額の推移

年度別の決算額をみると、各年度とも歳出総額より歳入総額が上回っています。

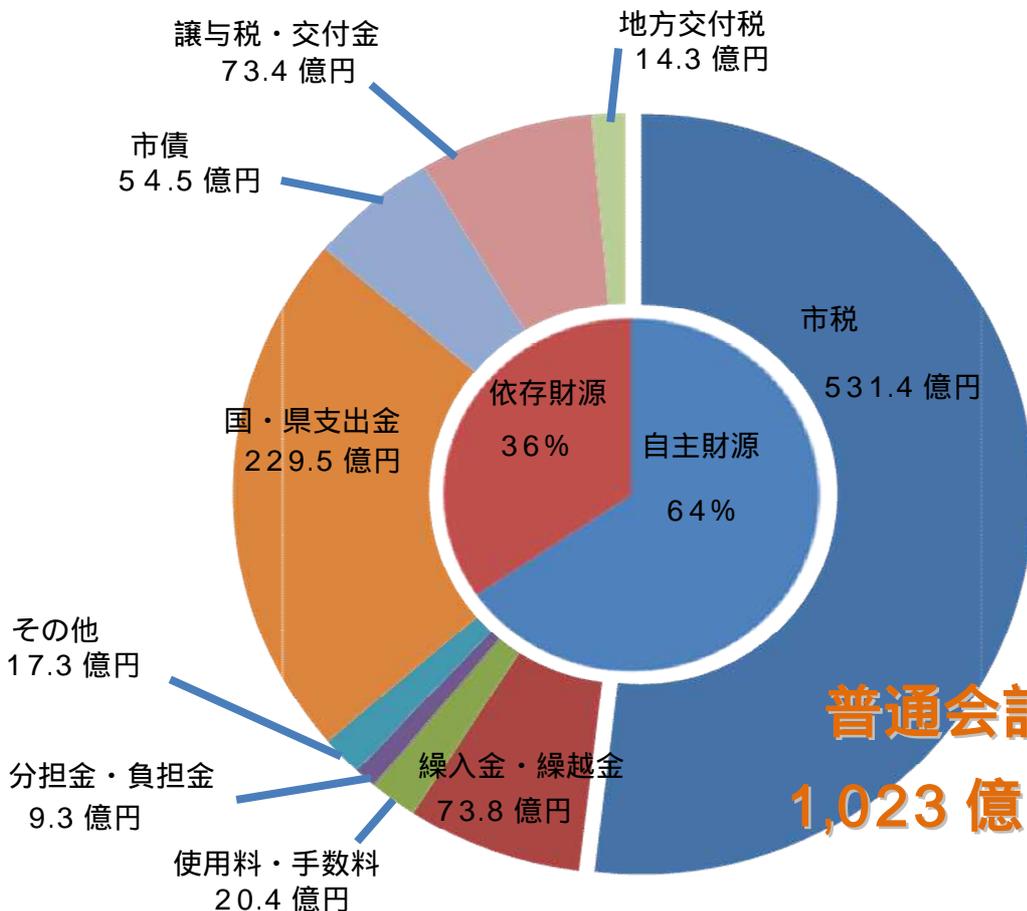
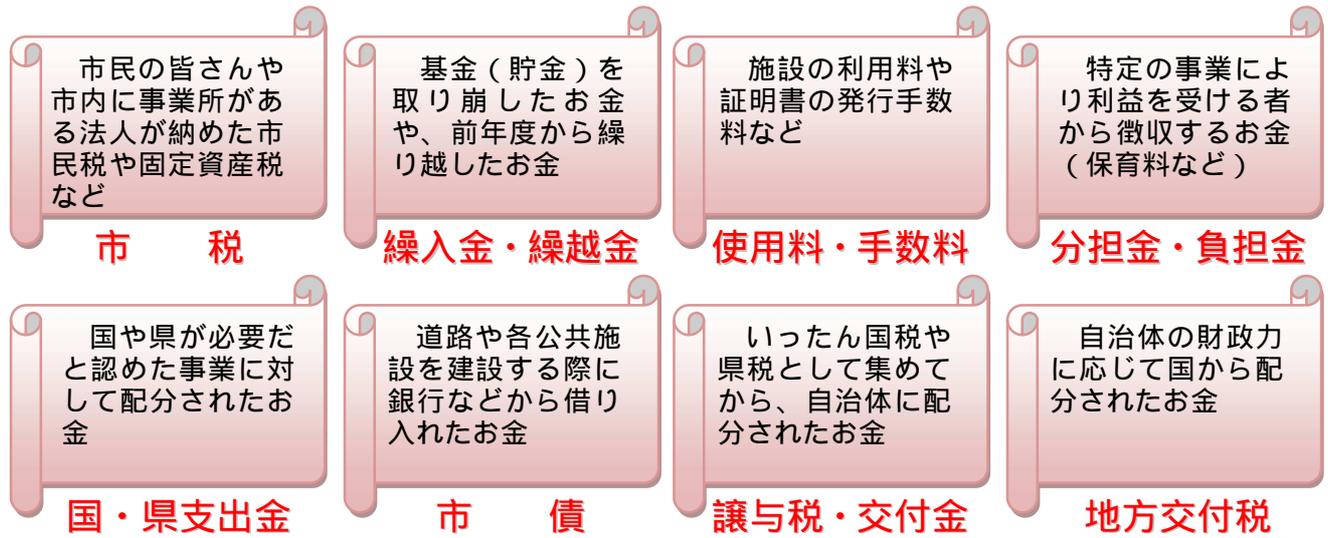
その差額から翌年度に繰り越すべき財源（やむを得ない事由により、年度内に支出が終わらず、翌年度に繰越して支出すべき事業の財源）を除いたものを実質収支と言い、翌年度以降の財源の一部となります。



## 2 歳入の概要

### 歳入の内訳

歳入は、市税のほか、国・県からの補助金、市債などがあります。平成 28 年度と比較すると、「市税」は約 9 億円の増となりましたが、「市債」は約 21 億円の減となりました。全体では、約 31.8 億円の減となりました。市債が減となった要因は、「こどもと福祉の未来館」建設事業に係る市債の発行額が減となったことなどが挙げられます。



歳入は「自主財源」と「依存財源」に分けられるよ。「自主財源」の割合が高いほど、市独自の事業を安定的にかつより多く行うことができるよ。

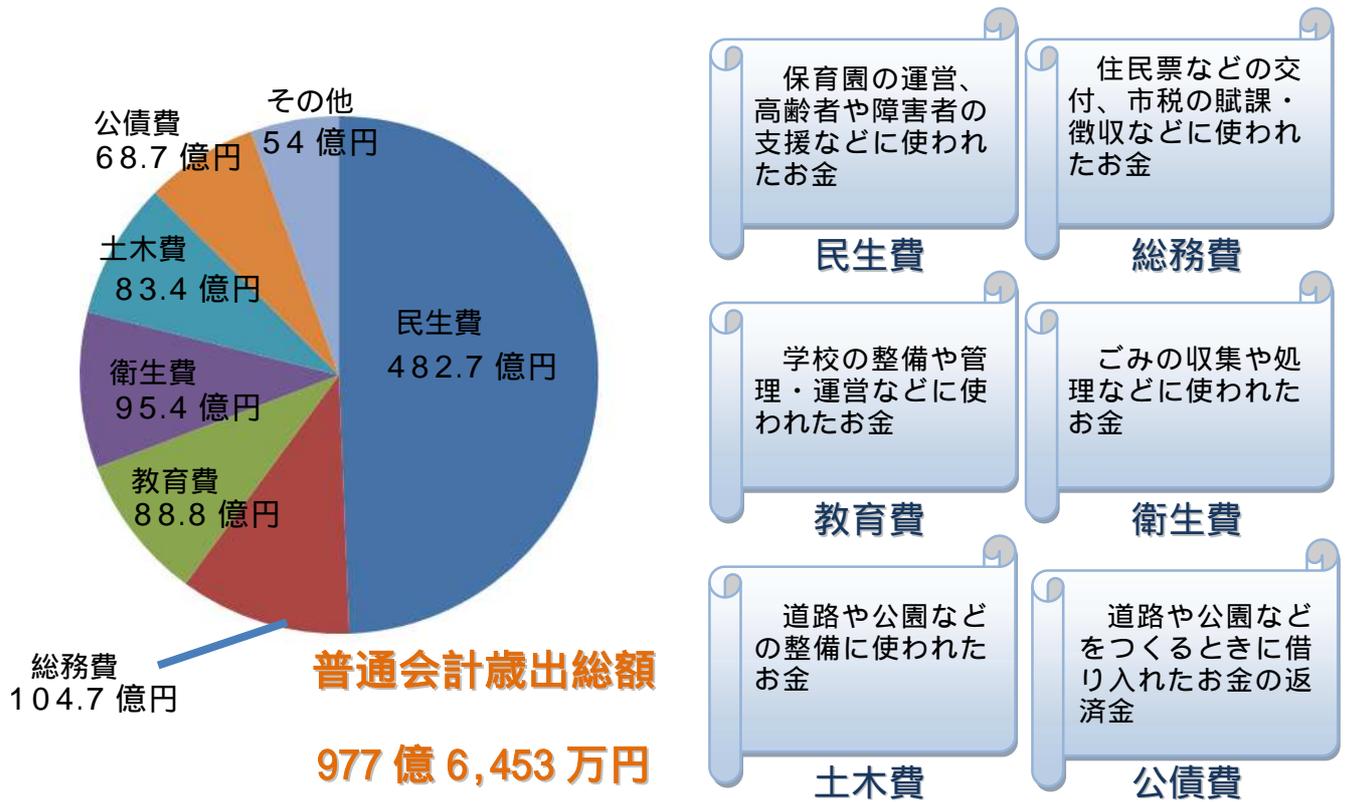


**普通会計歳入総額**  
**1,023 億 8,979 万円**

### 3 歳出の概要

#### (1) 目的別歳出の内訳

どんな分野に費用を要したか示す目的別歳出をみると、「民生費」が全体の5割弱を占めていることが分かります。ただし、前年度の決算額と比較しますと約21億円減となりました。減の要因には亀鶴園空調改修費（完了に伴い約2.3億円減）こどもと福祉の未来館建設費（完了に伴い約25億円減）などが挙げられます。



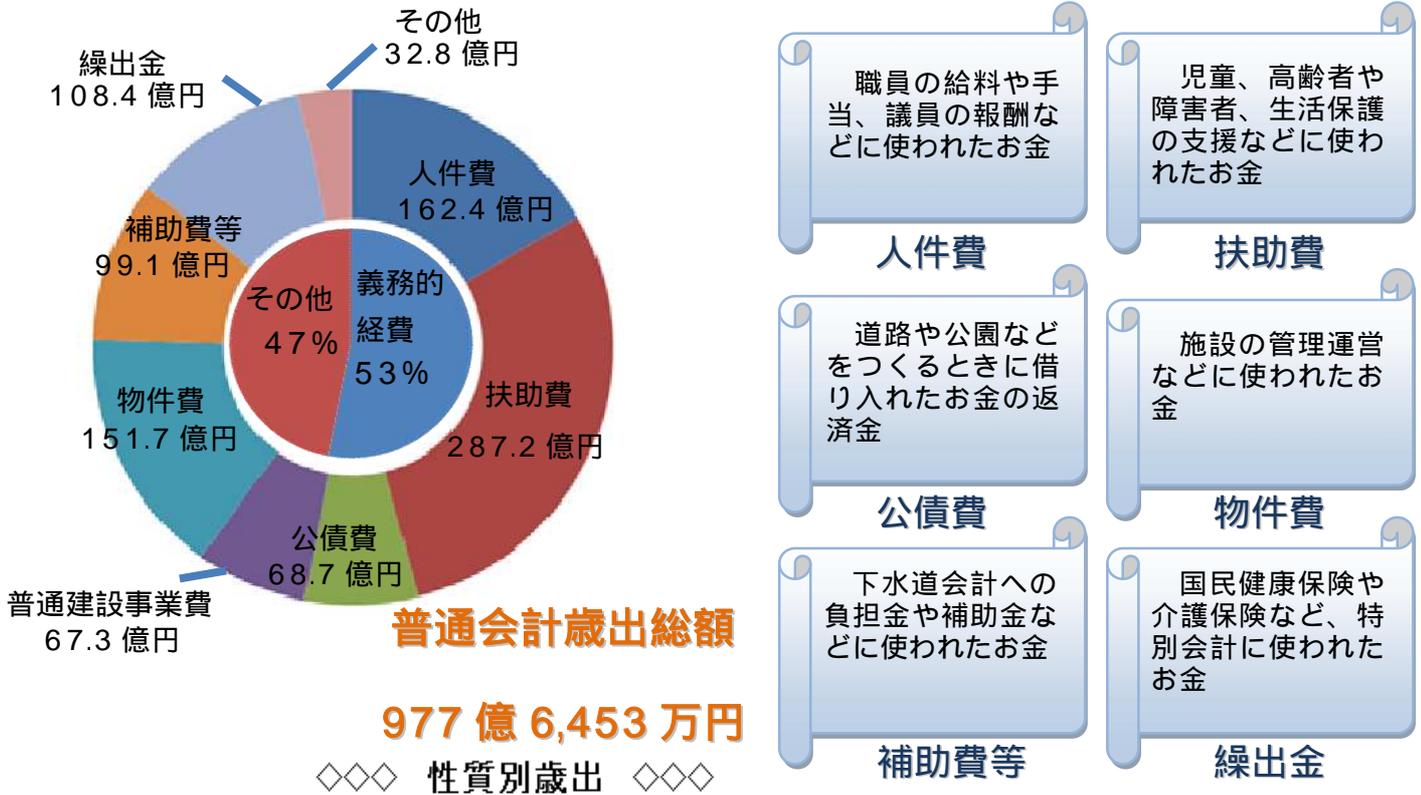
#### ◇◇◇ 目的別歳出 ◇◇◇

区分	平成29年度		平成28年度	前年度比増減額
	決算額	構成比	決算額	
民生費	482億6,944万円	49.4%	504億1,699万円	▲21億4,755万円
総務費	104億6,992万円	10.7%	118億4,004万円	▲13億7,012万円
教育費	88億7,912万円	9.1%	92億4,071万円	▲3億6,159万円
衛生費	95億3,561万円	9.8%	113億8,656万円	▲18億5,095万円
公債費	68億6,838万円	7.0%	66億7,388万円	1億9,450万円
土木費	83億4,490万円	8.5%	68億922万円	15億3,568万円
その他	53億9,717万円	5.5%	55億7,280万円	▲1億7,563万円
合計	977億6,453万円	100.0%	1,019億4,021万円	▲41億7,568万円



## (2) 性質別歳出の内訳

決算額を用途ごとに区分した「性質別」で見ると、毎年度必ず支出しなければならない義務的経費（人件費・公債費・扶助費）が全体の半分以上を占めています。近年の傾向では、人件費は年々減少しており、公債費は概ね横ばいとなっています。一方で、扶助費については、依然として高い割合を占めています。



職員の給料や手当、議員の報酬などに使われたお金

**人件費**

児童、高齢者や障害者、生活保護の支援などに使われたお金

**扶助費**

道路や公園などをつくる時に借り入れたお金の返済金

**公債費**

施設の管理運営などに使われたお金

**物件費**

下水道会計への負担金や補助金などに使われたお金

**補助費等**

国民健康保険や介護保険など、特別会計に使われたお金

**繰出金**

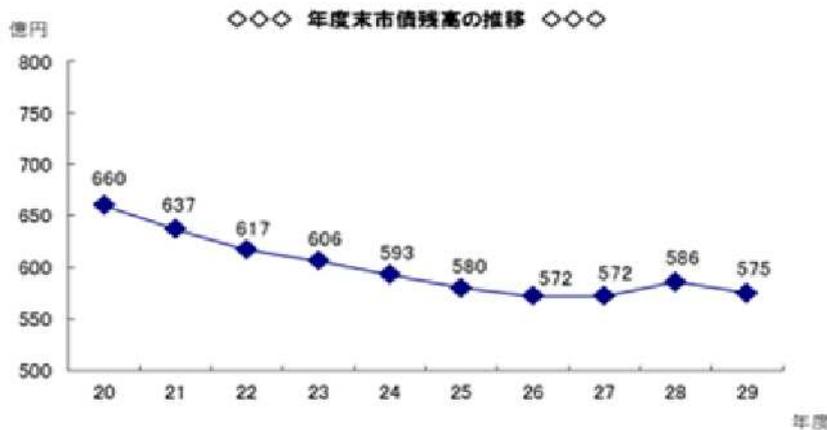
義務的経費などの経常経費の割合が大きくなると、新しいサービスや公共施設の建設などが難しくなるのだよ。



性質別をもう少し詳しく見て行くと、最も減っているのが普通建設事業費で、前年度より34.5億円減っています。こちらは先ほども述べたとおり、こどもと福祉の未来館建設事業完了などによるところが主要因となっています。一方で、最も増えているのが物件費で6.4億円増えています。これは、一般廃棄物収集運搬業務委託料の増などが主要因となっています。さらに、その他については15.3億円減っていますが、主要因としては、財政調整基金積立金の減少によるところです。

## 4 市債と公債費

今回は、市債（道路や各公共施設を建設する際に市が借り入れたお金）と公債費（市債の返済金）に焦点を絞り、参考までに人口が同規模の川越市、越谷市を取り上げてみました。



所沢市では今まで、次世代に過度な負担を残さないように配慮して、市債を管理してきたことから、市債残高は年々減少傾向にあり、平成 29 年度末は、平成 20 年度末と比べ約 85 億円減の 575 億円となりました。

右の表は、市全体でいくらの借金があり、住民一人当たりでいくらになるかを、川越市、越谷市と並べて示した表です。所沢市は

◇◇◇ 他市との比較 ◇◇◇

平成29年度	所沢市	川越市	越谷市
人口(平成30年3月31日現在)	343,993人	352,418人	341,095人
地方債年度末現在高	575億2,993万円	1,031億7,052万円	791億9,938万円
住民一人当たり額	16.7万円	29.3万円	23.2万円
実質公債費比率	2.1%	5.5%	7.0%

(数値は各市決算状況調より)

住民一人当たり 16.7 万円の借金を背負っていることにはなりますが、川越市、越谷市と比べると少ない金額となっています。

また、実質公債費比率とは、普通会計が負担する実質的な公債費がどの程度かを示す比率で、簡潔に述べると、市の収入に対していくらの借金返済額があるのかという割合であり、過去 3 年間の平均値により算出するものですが、こちらも川越市、越谷市と比べると低い比率となっています。

各市の方針や実情もあり、一概には言えませんが、今回取り上げた市と比べると、数字上は、借金及び返済額共に少ないものと言えます。

### おわりに。。。

今回の財政トークスでは、29 年度決算の概要についてお知らせしました。本文では触れていませんが、所沢市の財政状況は引き続き健全な状態が保たれています。(健全化判断指標については、市ホームページなどでご紹介しています。)

今後も、社会保障経費の増加や所沢駅西口区画整理事業・クールジャパンフォレスト構想などの大規模事業による多額の財政需要が見込まれ、大変厳しい状況が続きますが、限られた財源を効果的・効率的に活用して、健全な財政運営と市民生活の更なる向上を目指してまいります。

